

二次性高血圧が疑われる方

- 若年発症の高血圧（特に 40 歳未満）
- 収縮期血圧が 160 mm Hg 以上の高血圧をお持ちの方
- 治療抵抗性の高血圧
- 副腎偶発腫瘍を伴う高血圧
- 40 歳未満で脳血管障害を合併されている方
- カリウム値が低い高血圧の方



高血圧センター長
亀村 幸平

Profile

かめむら こうへい

平成10年に徳島大学を卒業、神鋼記念病院循環器内科医長。日本循環器学会認定循環器専門医、日本高血圧学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・指導医、日本心血管インターベンション治療学会認定医などの資格を持つ。

外来スケジュール

二次性高血圧外来のスケジュールです

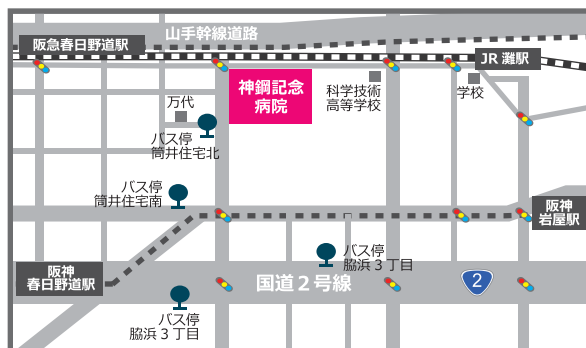
	月	火	水	木	金
午前	×	○	×	○	×
午後	×	×	×	×	×

病院へのアクセス

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1 丁目 4-47

TEL 078-261-6711（代表）

FAX 078-261-6726



- ◇ JR「灘」駅より徒歩約 7 分
- ◇ 阪急電鉄「春日野道」駅より徒歩約 7 分
- ◇ 阪神電鉄「岩屋」駅より徒歩約 10 分



あなたの血圧 大丈夫ですか？



社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院 循環器内科

Shinko Hospital

原発性アルドステロン症



「高血圧は食生活や加齢に伴うせい」と決めつけていませんか？

高血圧症の約5～10%は、何らかのホルモン異常や腎動脈狭窄、遺伝子異常などの影響が関与している可能性があるといわれています。これらを総称して【二次性高血圧症】と呼びます。

二次性高血圧を見つけることが大事な理由があります。それは原因を明らかにし、治療することにより、高血圧が完治あるいは内服の数を減らせたり、血圧のコントロールを良くすることができるからです。

二次性高血圧の中で最も多くの割合を占めるのが【原発性アルドステロン症】です。「加齢のせい」や「生活習慣のせい」だと思われている方の中にも、正しく診断することにより内服から解放される場合もありますので、一度調べてみることをおすすめします。

原発性アルドステロン症 診断の流れ

Step 1 高血圧に原因があるか調べます

外来で高血圧の原因となるホルモンを調べるための採血をします。
採血は30分ほど横になって状態を安定させた状態で行います。



STEP01
外来

Step 2 負荷検査を行い診断の確定と画像で評価を行います

高血圧の原因となるホルモンは、副腎から過剰に産生されていることが多いため、造影CTで副腎の性状および腫瘍の有無と血管の走行を確認します。
簡単な負荷検査を行い、ホルモン変化の推移を採血で確認します。
※検査時間は2～3時間です。



STEP02
外来

Step 3 入院の上、ホルモン産生の部位を同定します

副腎の血管から採血を行い、左右どちらから過剰にホルモンが産生されているかを評価します。
※入院の上カテーテル検査で行います。入院期間は3日、検査時間は1～2時間です。

STEP03
入院

Step 4 部位の同定ができれば手術を行います

腹腔鏡下で過剰にホルモン産生している副腎のみを取り除きます。
※1週間ほど入院が必要です。



STEP04
入院

※ 症状によって検査の流れが変更する場合がありますのでご了承ください